

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 9 月 5 日現在

機関番号：17401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K04137

研究課題名(和文)医療専門職の「組織化された自律」の構造と変容の社会学的研究

研究課題名(英文)A sociological study of the structure and transformation of "organized autonomy" of medical profession

研究代表者

中川 輝彦(Nakagawa, Teruhiko)

熊本大学・大学院人文社会科学研究部(文)・教授

研究者番号：10440885

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文):本研究では、日本の医療専門職の「組織化された自律」の構造と変容の叙述、特にそのための理論枠組みの構築を試みた。課題は2つある。第1に、米国社会を前提に構築された既存の専門職論を、より自由度の高い枠組みに組み直すことである。第2に、医療(実践)と医学(研究)のグローバルなネットワークを視野に入れることである。

第1の課題については、E.ヒューズの職業研究からE.フリードソンの専門職論へという展開の中で失われた可能性を検討した。第2の課題については、EBM運動を検討し、それがグローバルな専門家システムでどのように展開し、各国社会でのEBMの制度化とどのように関係しているのかを検討した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的貢献は、グローバル化が進化した諸社会を対象とする医療社会学の理論構築への寄与があげられる。本研究は、一国の社会の変動だけに焦点をあわせた分析ではなく、複数の社会の変動を相互に関係付けながら分析することの可能な理論枠組みの構築に寄与した。本研究の社会的な貢献は、残念ながら間接的なものに留まる。しかし本研究が提示した、日本医療をグローバルな展開の中で把握する視点は、医療政策をめぐる公共的な議論にも貢献することが期待される。

研究成果の概要(英文): In this study, we attempted to describe the structure and transformation of "organized autonomy" in the Japanese medical profession, and in particular, to develop a theoretical framework for this purpose. There are two main issues to be addressed. The first is to reconfigure existing professional theories constructed on the premise of U.S. society into a more flexible framework. The second is to take into account the global network of medicine (practice) and medical science (research).

Regarding the first issue, we have found a lost potential in the development from Hughes' theory of professions to Freidson's theory of professions. For the second issue, we examined the EBM movement and how it has developed in global expert systems and how it relates to the institutionalization of EBM in national societies.

研究分野：社会学

キーワード：専門家システム 専門職 医療 医学

1. 研究開始当初の背景

米国の医療専門職 (medical profession) の社会学的研究は、分厚い蓄積がある。これらの研究は、20 世紀の中頃から現在にいたる米国医療の構造変容を、医療専門職の「組織化された自律 (organized autonomy)」(Freidson [1970]1988) に注目して描き出している。すなわち 20 世紀中頃の医療専門職の「黄金期」においては医師に大きな自律が認められていたが、20 世紀後半、特に 1970 年以後は、「上」からは官僚制的な統制の強化 (例えば医療保険へのマネジドケアの導入) また「下」からは患者の権利の制度化 (例えばインフォームド・コンセントの制度化) により、その自律は浸食されてきたというのである。

これに対して日本の医療専門職に関する研究は、米国の医療専門職に関するものに比べて少ない。したがって上記に相当する描写を、日本の医療専門職について行うことは難しい。もちろん米国と同様の変容が生じたと仮定して議論を進めることもできない。米国医療と日本医療の歴史的・制度的文脈が異なるからである。例えば医療保険ひとつとっても、日米とも総力戦体制の構築に伴い整備されたことは同じでも、米国は私保険中心に、日本は社会保険中心に保険制度は組み立てられており、その違いは無視できるものではない。

2. 研究の目的

ここに成立するのが、戦後から現在にいたる日本の医療専門職の「組織化された自律」の構造とその変容について、米国と比較可能な形式で社会学的に叙述するという課題である。本研究の目的は、こうした関心から日本医療の経験的研究を行いつつ、叙述のための理論枠組みを構築することである。

この目的の達成のためには、少なくとも 2 点留意しなければならない問題がある。第 1 に、医療社会学、特に医療専門職論の多くが「米国产」であり、そこで用いられている理論枠組みもまた米国の歴史的・制度的文脈に染め上げられている。「専門職」やその「自律」といった概念はその最たるものである。加えて「黄金期」の医療専門職批判というモチーフも専門職論の諸概念 (例えば「専門職支配 (professional dominance)」(Freidson 1970=1992)) には色濃く反映されている。これらを「脱色」して、より自由度の高い理論枠組み、つまり米国以外の社会、特に日本社会にも適用可能な枠組みを構築しなければならない。

第 2 に、医療専門職は各国社会の制度である。しかし同時に現代医療の実践と研究、つまり狭義の医療 (medical practice) と医学 (medical science) は、トランスナショナルにネットワーク化された営み、A.ギデنزのいう「専門家システム (expert system)」(Giddens 1990=1993) を形成している。したがって各国の制度化された医療の構造変容を論じるためには、一国の社会だけではなく、こうしたトランスナショナル (あるいはグローバル) な文脈も視野に入れなければならない。つまりナショナルかつトランスナショナルな事象として医療を把握する理論枠組みを構築する必要がある。

3. 研究の方法

そこで本研究は、2 つの研究プロジェクトを設定した。第 1 に、専門職論の理論的ないし学説史的研究である。医療専門職論の理論的系譜を遡りつつ、どのように専門職概念が形成されたのかを検討することを通じて、現行の専門職論以上に自由度の高い理論枠組みの構築をめざすというプロジェクトである。ここで注目したのは、E. ヒューズに始まり、E. フリードソンを含む専門職論の「古典」的研究が展開されたシカゴ学派的「仕事の社会学」の系譜である。

第 2 に医療と医学のナショナルかつトランスナショナルな文脈を浮き彫りにするトピックに注目した経験的研究である。今回注目したのは、医療という専門家システム内部のトランスナショナルな運動として開始され、その後広く展開した「標準化 (standardization)」(Timmermans and Berg 2003) 運動のひとつ、EBM (evidence-based medicine) 運動である。医療という専門家システム内部で EBM 運動はどのように展開したのか、またそうした展開は各国の医療制度の変容とどのように連動していたのかを検討するプロジェクトである。

4. 研究成果

第 1 に、専門職論の理論的・学説史的研究では、E. ヒューズの職業 (occupation) 研究から E. フリードソンの専門職論への展開に注目した。フリードソンの専門職論がヒューズの職業研究から何を継承し、何を継承しなかったのかを問い、そのことを通じて専門職論の失われた可能性 (あるいは職業研究のポテンシャル) を検討した。これらの検討から得られたのは、ある社会における医師という職業の「免許と権限 (licence and mandate)」(Hughes 1958) のフォーマル/インフォーマルな展開を、その社会の文化的、特に道徳的枠組みと関係付けて論じることを可能にする視点である (中川 2019a; 2019b; 2020)。

第 2 に、EBM の社会学的研究では、医療という専門家システムにおける EBM をめぐる意味論的

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

慣習の形成と、各国における EBM をめぐる論争や政策過程を関係付けて検討した。この作業を通じて得られたのは、医療という専門家システムと、各国の状況を関係付けて論じることを可能にする視点である。あわせて EBM 概念は固有の曖昧さを孕む「対立を伴う概念 (contested concept)」(Bosk [1979]2003) として構築されたこと、この曖昧さゆえに EBM はさまざまな方向性の(時に正反対の方向性の)医療改革の正当化に利用されたことを指摘した(中川 2018; 2022)。

文献

- Bosk, Charles, [1979]2003, *Forgive and Remember: Managing Medical Failure*, Chicago, London, University of Chicago Press.
- Freidson, Eliot, [1970]1988, *Profession of Medicine: A Study of the Sociology of Applied Knowledge (with a new Afterword)*, Chicago and London, The University of Chicago Press.
- Freidson, Eliot, 1970, *Professional Dominance: The Social Structure of Medical Care*, New York, Atherton Press. (宝月誠・進藤雄三訳, 1992, 『医療と専門家支配』恒星社厚生閣.)
- Giddens, Anthony, 1990, *The Consequences of Modernity*, Cambridge, Polity Press. (松尾精文・小幡正敏訳, 1990=1993, 『近代とはいかなる時代か?—モダニティの帰結』而立書房.)
- Hughes, Everett, 1958, *Men and Their Work*, New York, Free Press.
- 中川輝彦, 2022, 「二つの EBM の誕生」佐藤純一・美馬達哉・中川輝彦・黒田浩一郎編『病と健康をめぐるせめぎあい コンテストーションの医療社会学』ミネルヴァ書房, 119-141.
- Timmermans, Stefan and Marc Berg, 2003, *The Gold Standard: The Challenge of Evidence-Based Medicine*, Philadelphia, Temple University Press.

学会報告

- 中川輝彦, 2018, 「EBM の社会学・序説」第 69 回関西社会学会大会.
- 中川輝彦, 2019a, 「職業研究とプロフェッション論—ヒューズとフリードソン—」第 45 回日本保健医療社会学会大会.
- 中川輝彦, 2019b, 「プロフェッションと素人—ヒューズ・職業研究の可能性」第 92 回日本社会学会大会.
- 中川輝彦, 2020, 「「医療の不確実性」再考」第 93 回日本社会学会大会.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 田中 朋弘	4. 巻 29
2. 論文標題 ビジネス倫理とは何か	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 総合診療	6. 最初と最後の頁 1243-1246
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川輝彦	4. 巻 28巻2号
2. 論文標題 書評：盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功士編著『社会学入門』（ミネルヴァ書房、2017年）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 保健医療社会学論集	6. 最初と最後の頁 97-98頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18918/jshms.28.2_97	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 中川輝彦
2. 発表標題 「医療の不確実性」再考
3. 学会等名 第93回日本社会学会大会
4. 発表年 2020年～2021年

1. 発表者名 中川 輝彦
2. 発表標題 職業研究とプロフェッション論 ヒューズとフリードソン
3. 学会等名 第45回日本保健医療社会学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中川 輝彦
2. 発表標題 プロフェッションと素人 ヒューズ・職業研究の可能性
3. 学会等名 第92回日本社会学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中川輝彦
2. 発表標題 EBMの社会学・序説
3. 学会等名 関西社会学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 田中朋弘	4. 発行年 2020年
2. 出版社 九州大学出版会	5. 総ページ数 246 (21)
3. 書名 生と死をめぐるディスクール (第1章「生と死をめぐる倫理」)	

1. 著者名 佐藤 純一、美馬 達哉、中川 輝彦、黒田 浩一郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 328 (23)
3. 書名 病と健康をめぐるせめぎあい (二つのEBMの誕生)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	田中 朋弘 (Tanaka Tomohiro) (90295288)	熊本大学・大学院人文科学研究部(文)・教授 (17401)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	横山 葉子 (Yokoyama Yoko)	慶應大学	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関